

# (2) 東京都立大江戸高等学校

## 1 学校概要

- 全校生徒514名(3部合計)
- 3部制 → 午前部、午後部、夜間部
- 単位制、総合学科の高校であり、小中での不登校経験者や高校の中途退学者を受け入れる「チャレンジスクール」。
- 三修制 → 自部と他部の授業を履修することで3年での卒業が可能。
- H27卒業生の進路は7割が進学  
進学を目指す生徒のために土曜授業も行っている。

## 2 UDLの取り組み

- ①UDL研究メンバーを定め、  
担当教科（保体・理科・美術）  
での実践報告を実施。
- ②UDL通信を発行。（教員間での情報共有）
- ③授業プリントや通信等に用いる  
フォント（イワタUDゴシック）の統一。

④「本時の目標」「本時の内容」を示す。

The image shows a classroom board with two main sections at the top: '本日の目標' (Today's Goals) and '本日の予定' (Today's Schedule). Below these, there is a large dark area for writing. On the left side of this area, there are labels for '本日の目標' and '本日の内容'. The '本日の内容' section contains a numbered list of four items. On the right side of the board, there are four numbered boxes corresponding to the schedule items, with their respective descriptions in parentheses.

Section	Item	Description
本日の目標	本日の目標	七宝焼きの技法を理解する
	本日の内容	
本日の予定	1	説明
	2	作業
	3	作業
	4	片付け、記録用紙の記入
Schedule	1	(導入)
	2	(展開1)
	3	(展開2)
	4	(まとめ)

昨年度は、全ての教科で実施。

⑤重要部分を板書するチョークの色を統一。

黒板の場合・・・1番重要な色を黄色

2番目に重要な色はオレンジ

ホワイトボードの場合・・・1番重要な色を赤

2番目に重要な色は青

## ⑥UDL3つの原則を意識して授業を構成する

認知ネットワーク  
学びの“what”（何を学ぶか）



- 視覚的手がかりの活用
- 必要に応じて仮名をふる
- 板書のポイントは色を変える
- 指示や説明は短く、具体的に

等

提示に関する内容

認知ネットワーク  
「what」何を学ぶか



板書のポイントは色を変える  
など、提示に関する内容

方略ネットワーク  
学びの“how”（どのように学ぶか）



- 解答に選択肢を提示する
- 多様な活動を取り入れる
- ICT 機器などの活用を認める
- 別の表現方法を認める 等

行動と表出に関する内容

## 方略ネットワーク 「how」どのように学ぶか



多様な活動を取り入れるなど、  
行動と表出に関する内容

## 感情ネットワーク

学びの“why”（なぜ学ぶか）



- 授業前に本時の目標を確認
- 授業の流れや見通しを示す
- 自力で解決できる課題設定
- 自己評価にチェックリストを活用

等

取り組みに関する内容

# 感情ネットワーク 「why」なぜ学ぶか



目標や内容を示すなど、  
取り組みに関する内容

⑦UDLの3原則を大江戸高校版として活用。

1)「インプット」・・・教員による提示方法

2)「アウトプット」・・・生徒自身の表現方法

3)「モチベーション」・・・教員による学習環境の  
整備

### 3 実施してみたのアンケート調査

#### 1) 目標や内容の提示

生徒→内容は肯定的回答多いが目標は否定的な回答が目立つ。

教員→必要64.1% 不要28.2%  
その他7.7%

## 2) 重要部分を板書するチョークの色の統一

生徒→肯定的だが、全教科の共通化については肯定的と否定的意見が同数。

教員→肯定的と否定的意見がほぼ同数。

## 4 アンケート結果から

- ・各授業の実態に合わせるべきという意見が多く見られたため、今年度は担当者の裁量に任せている。
- ・教科によっては、実施しにくい。実技教科においては効果有り。
- ・UDL促進は「全員が分かりやすい授業」につながるが、「考えさせる授業」からは離れていく場合が多い。特別な支援を必要としない生徒の学びの妨げにならないような配慮も必要。

## 5 本校で実践可能だと考えられるもの

- 1) 各教科に応じた学習環境の整備
- 2) 視覚的教材の使用→教科書のイラスト  
ネットの画像  
実物 など…
- 3) 思考させる活動を行う場合は、流れや仕方を示し、その後は生徒に全て行わせる。  
配慮が必要な生徒には、一斉指導した後に個別に指導する。(ダブルアプローチ)